

○ 勝山市の市民性について

新風会・公明
松本聖司郎
議員



その他の質問

・ゼロカーボンシティ実現に向けて

【議】 私が勝山市でこれまで20年以上活動している中で見えてきている勝山市の市民性について、日本各地でも問題とされている「次世代軽視」が特に問題になっていると判断せざるを得ない。傍目から見ると悪いという現状がいまだにある中、昨年の地域おこし協力隊の報告会で次のようなことがあった。

【隊員】 隊員たちが行う新しく時代に入った取り組みに対して調りも把握もせず、自分の知らないことだからという理由だけで「下らんことやめろ。まちの金使って何遊んでるんや。」といった書き込みをしてくる人がいるということが発表された。

【松本】 正式な手順を踏んだ上で行っているプレイヤー側としては、士気の大いに下がる行為だ。私も街のイベントとして同様の経験をしているが、人の多く集まった公の場である報告会で、隊員から「やめてくれ。」と訴えざるを得ない程、街にそういった

反応をしてくる人がいることを証明した出来事だった。

【松本】 あれから1年が経ち、恐竜学部設置、PONSAPONによる勝山市に來られる方、住まわれる方が今後増えることが見込まれた今、この「閉鎖的な市民性」から来る各種問題に対し、どのような対策を行っていくのか尋ねる。

【理】 人口減少・少子高齢化が進む中、地域の活力を維持するために、令和4年度からスタートする第6次勝山市総合計画では、年齢や性別等にとられない多くの人が関わることを基本的な考え方とし、住民が主体となったまちづくりを進めるため、「地域の未来を創る」「まちの楽しさを創る」の2つの「創る」を政策の柱の1つとして掲げている。

【松本】 本計画で推進するまちづくりの考え方を広く市民に浸透することで、全ての人がお互いを尊重し、支え合いながら地域で活躍できるひとつづくりに取り組んでいく。

○ ロシアのウクライナ侵攻について ○ 中学校再編計画案について

日本共産党
久保幸治
議員



その他の質問

・勝山市キッチンカー導入支援事業について
・新型コロナウイルスの陽性者の療養について

【議】 戦争のニュースに、市民のみならず世界中の人が心を痛めている。戦争で傷つくのは、その国で平和に暮らしてしていた市民や国民である。この不条理に対し、国や文化の違いを超えて、人間としてどうあるべきか、何ができるか、考える必要がある。

【松本】 平成2年9月議会では、全ての国の核兵器の廃絶を求め、世界の恒久平和を実現するため、非核平和都市宣言を決議した。世界に発信した市長のメッセージのように、平和な世界が行政の前提なら、国連主導の核兵器禁止条約への加盟を国に提唱することに異論はないはず。

【理】 市の見解を伺う。
【松本】 ロシアのウクライナへの侵攻は、国会の衆参両院において、ロシアによるウクライナ侵略を非難する決議案が採択され、この決議では「軍による侵略を最も強い言葉で非難する」と表明し、「力による一方的な現状変更は断じて認められない」と強調している。多くの民間人が犠牲となった今回のロシアの行動は、決して許されるものではないと考える。

【議】 署名など市民運動になりつつある中学校再編計画の根本的な問題点として、計画の情報を広く市民に公開し、市民の声を拾わなかった点に尽きる。

【松本】 そこで、今回の中学校再編・勝高併設の計画は、現在でも市民は十分に理解し、コンセンサスを取られているとの認識か。

【理】 また、なぜ再編計画に関し、市民への情報の開示、市民からの声を聴く道具として市の広報などの紙ベースによるアンケートやパブリックコメントの募集をしなかったのか。

【松本】 市民の関心の度合も異なり、限なく浸透して十分な理解を得ることは難しい面もあるが、様々なツールを活用して市民への情報提供に努めてきた。パブリックコメントの募集も含め、意見聴取にも手紙やハガキでも可能とのお知らせを常に事前に行い、できるだけ多くの意見をいただけるよう努めている。